

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	19205
課題名	早期肺腺癌(上皮内腺癌、微少浸潤性腺癌)における気管支擦過/気管支肺胞洗浄細胞診の有用性と細胞形態学的特徴
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2022年 12月 31日
研究の対象	2014年1月1日 ～ 2019年12月31日に当院で早期肺腺癌(上皮内腺癌および微少浸潤性腺癌)と病理診断された方。
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報 (詳細：診療録、手術記録、病理診断報告書から、性別、手術時年齢、病理学的診断内容などを抽出する ) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名： ) <input type="checkbox"/> 血液 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (病理組織標本および細胞診標本)
研究の意義、目的	<p>本邦において、肺癌が癌死に占める割合は最も高く、特に肺腺癌は増加傾向にあります。肺腺癌のなかでも早期の症例(上皮内腺癌、微少浸潤性腺癌)は外科的治癒可能とされており、早期発見は非常に重要です。</p> <p>早期肺腺癌の早期発見には、画像検査と術前の生検、細胞診による病理診断が重要です。しかし、早期肺腺癌はサイズが小さく、肺の末梢に位置することが多いため、経気管支およびCTガイド下組織生検では、質的・量的に十分な組織検体が採取できないことも多いのが現状です。</p> <p>一方で、気管支擦過細胞診や気管支肺胞洗浄細胞診はより安全で低費用であり、迅速な結果報告のためにも有用と考えられます。</p> <p>そこで、本研究では、当院の早期肺腺癌症例の気管支擦過および気管支肺胞洗浄液の細胞診について、経気管支組織生検の補助的診断手法としての有用性を検討いたします。</p>
研究の方法	<p>診断後の細胞診標本および病理組織標本を光学顕微鏡にて詳細に観察し、病理診断報告書等の情報と照合して後ろ向きに早期肺腺癌症例を検討します。その際には、一部診療録、手術記録も閲覧する場合があります。氏名、病院診療録IDなどの個人情報と分離して匿名化を行います。診療録、病理診断報告書から抜粋した調査項目は、試料・情報等の保管期間終了後に紙媒体の研究資料はシュレッダー処理を行って廃棄、電子データは完全に消去します。</p>
その他	
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産

の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

旭川医科大学病院 病理部 臨床検査技師

宮川京大（研究責任者）

〒078-8510

旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

電話 0166-69-3392